

生涯スポーツ・体力づくり全国会議2025

第1分科会

団体名 (公財) 日本スポーツ協会
副団体名 (公社) スポーツ健康産業団体連合会

1. テーマ

「コロナ禍を経た女性のスポーツ実施率の変化と習慣化における阻害要因」(仮題)

2. 趣旨

本分科会では、コロナ禍を経たスポーツ実施率の変化(二極化等)に着目し、20~50代の女性のスポーツ実施率を高めるための方策として、その前の年代からのスポーツ・運動習慣の獲得やスポーツ・運動に対するイメージの改善の必要性について検討したい。その上で、女性のスポーツ実施率向上に向けた取り組みや研究をもとに、年代やライフステージに応じたスポーツを「する・みる・ささえる」環境を整備するための情報交換やディスカッションを行ない、具体的なアプローチ策を検討することとしたい。

<関連するキーワード>

- ・思春期(小学校高学年から中学生) × ACP(アクティブ チャイルド プログラム)
- ・クラブチーム × 部活動の受け皿
- ・企業における女性活躍促進 × スポーツ活動やフェムテック

3. 講師

コーディネーター

室伏 由佳氏(順天堂大学スポーツ健康科学部前任准教授/日本スポーツ協会女性スポーツ委員会委員長)

パネリスト

春日 晃章 氏(岐阜大学教育学部教授)

藤丸 真世 氏(株式会社 TBS テレビ 人事労政局マネージャー/女性スポーツ委員会委員)

調整中

生涯スポーツ・体力づくり全国会議2025

第2分科会

団体名 (公財)日本レクリエーション協会
副団体名 (公社)全国スポーツ推進委員連合

1. テーマ

『災害とスポーツ／フェーズ1～』

避難所等におけるスポーツ・レクリエーション関係者の役割

～人との関わり、コミュニケーションをとおした心と体の健康づくり～

2. 趣旨

令和6年1月1日に能登半島沖を震源とする地震、9月の能登豪雨により、いまだ多くの方が避難所での生活を余儀なくされている。

厚生労働省の「避難所生活を過ごされる方々の健康管理に関するガイドライン」では、エコノミー症候群、生活不活発病などの病気の予防には積極的に体を動かすことが大切であること、心の健康保持には普段からお互いに声を掛け合い、コミュニケーションをとりやすい雰囲気づくりに気遣うことが心のケアになるとしている。

災害発生後、様々な団体等が被災者への支援活動を実施しているところであるが、スポーツ・レクリエーション活動は、活動そのものの楽しさはもちろん、他者との交流やコミュニケーションの促進による楽しさが得られる活動であり、人間関係づくりを促進しながら、子どもから高齢者まで、活動に参加される方々の心と体の健康づくりに寄与している。

本分科会では、東日本大震災・能登半島地震により被災された方々へのスポーツ・レクリエーションプログラムの実践報告をもとに、実施する際の配慮や実施方法などを考えるとともに、その一部を体験いただく。また、いざという時に備えて防災意識を楽しく学び、体力づくりにつなげるプログラムも紹介する。

3. 講師

コーディネーター

天野 和彦 氏 (福島大学人間発達文化学類特任教授・災害社会学[被災者支援、コミュニティ形成])

パネリスト

山内 直子 氏 (公益財団法人日本レクリエーション協会理事／
特定非営利活動法人宮城県レクリエーション協会副会長)

宮西 好子 氏 (七尾市レクリエーション協会事務局長／
福祉レクリエーション・ワーカー／健康運動指導士)

村里 洋子 氏 (盛岡市スポーツ推進委員協議会会長／
特定非営利活動法人イーはとーぶスポーツクラブゼネラルマネージャー)

川野 浩二 氏 (一般社団法人日本ウォーキング協会防災ウォーク備担当部長)

生涯スポーツ・体力づくり全国会議2025

第3分科会

団体名 (公財)健康・体力づくり事業財団
副団体名 (公財)日本スポーツ施設協会

1. テーマ

『災害とスポーツ／フェーズゼロ』

減災のためにスポーツ・運動指導者ができることと災害時支援のための基礎知識

2. 趣旨

石川県能登半島は、令和6年1月1日に最大震度7の地震、9月には豪雨と立て続けに大災害にみまわれた。もともとの地政学的な特徴や温暖化による気候変動も加わり、日本列島は天災が多く、能登半島で起きていることは、日本のどこでも起こりうる。天災を防ぐことはできないが、日頃からの備えにより少しでも減災することは可能かもしれない。例えば、住民が素早く安全に避難所まで避難できる体力づくり、避難所で起こる健康課題対応のための知識・技術の研修など、スポーツ・運動指導者として取り組めることはある。さらに災害時に避難所として活用されるのは地域の体育館や学校など、スポーツ・運動を実施する場所であることが多く、必然的に使い慣れているスポーツ・運動指導者が、軌道にのるまで運用においてもリードをとることが期待される。

そこで本分科会では、減災の観点からみた、災害が起きる前にスポーツ・運動指導者として行っておきたいこと、また避難所となるスポーツ・運動施設における避難所体制の基礎知識など、実際に運動プログラムの体験やグループワークを通じて理解を深めたい。

3. 講師

コーディネーター

篠田 邦彦 氏 (新潟大学名誉教授／NSCA ジャパン前理事長)

パネリスト

片山 昭彦 氏 (四国学院大学社会学部教授／健康運動指導士)

松尾 洋 氏 (株式会社くまもと健康支援研究所代表取締役／健康運動指導士)

吉本 博幸 氏 (公益財団法人金沢市スポーツ事業団事務局長)

竹井 早葉子 氏 (NPO 法人かなざわ総合スポーツクラブ理事長／健康運動指導士)

生涯スポーツ・体力づくり全国会議2025

第4分科会

団体名 (公財)日本パラスポーツ協会
副団体名 (公財)スポーツ安全協会

1. テーマ

スポーツがもたらす可能性について

～パラスポーツからみたスポーツの価値を考える～

2. 趣旨

第3期スポーツ基本計画では、「スポーツを通じた共生社会の実現」と記され、政策目標として、誰もが「する」「みる」「ささえる」スポーツの価値を享受し、様々な立場・状況の人と「ともに」スポーツを楽しめる環境の構築を通じ、スポーツを軸とした共生社会を実現する。と明記されている。

東京 2020 パラリンピックの開催決定以来、パラスポーツを取り巻く環境は大きく変わってきた中、選手の軌跡や競技の魅力などを取り上げる報道や、取り巻く関係者や支援者の多様化など多くの方の目に触れることとなってきた。

そのような中、パリ 2024 パラリンピックの開催を終え、今一度パラスポーツの置かれている位置や意義、さらにはパラスポーツがもつ力について改めて考える機会とする。

また、本分科会を通じて、パラスポーツを多くの人々が理解し、社会全体で盛り上げていく状況をつくり上げていくために、選手や関係者などの当事者だけでなく、社会全体がパラスポーツを通じた活力ある共生社会の実現について考える機会とする。

3. 講師

コーディネーター

藤田 紀昭 氏 (日本福祉大学大学院スポーツ科学研究科教授)

パネリスト

鈴木 孝幸 氏 (パリ 2024 パラリンピック水泳金メダリスト)

羽生 綾子 氏 (一般社団法人日本肢体不自由者卓球協会 ヘッドコーチ/
公益財団法人日本卓球協会 NTC アスレティックトレーナー)

松崎 英吾 氏 (特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会 専務理事)